

高耐候形セラミックシリコン系
シーラーレス塗材(天井用)

DIA

ダイヤ ノキセラコート

F☆☆☆☆

無機・有機複合の高耐候シーラーレス&トップコートレス塗材です。
耐汚染性、透湿性、防カビ防藻性に優れ、建物の天井面への塗替え施工に
適しています。

特 長

優れた耐候性	無機・有機を複合する事によりアクリルシリコン樹脂塗料相当の高耐候性を有します。(ハルスハイブリッド)
透湿性	室内の湿気を屋外に逃がし、塗膜のふくれや結露などを抑制します。
省工程	改修面の塗膜の状況によっては、シーラー・トップコートを省略し、主材塗布だけの仕上げが可能です。
耐汚染性	結合材の無機バインダーにより、塗膜表面が親水性を帯びますので、継続的な塗膜汚染が少なく美観を保持します。
下地の動きに追従	微弾性がある可とう形塗材で、下地のヘアークラックに追従します。
さざ波模様仕上	多孔質ローラーにより厚膜の仕上も可能です。下地のムラを目立ちにくく仕上げます。
中性化抑制	コンクリートの中性化抑制効果が期待できます。 *NSK基準による
防カビ・防藻	カビ・藻の発生を制御するとともに、カビ、藻による塗膜の劣化を防ぎます。
艶消し仕上げ	落ち着いた雰囲気の艶消し仕上げのためムラが出にくく、安定した仕上がりが得られます。

試験成績表

試験項目	品質基準	ノキセラコート
耐水性	水に168時間浸しても異常がないこと	異常なし
付着強さ	標準状態 0.5N/㎡以上	1.8kgN/㎡
	浸水後 0.5N/㎡以上	1.6kgN/㎡
温冷繰返し試験	試験体の表面に、剥がれ・ひび割れ・膨れがなく、かつ著しい変色がないこと	異常なし
透水性(A法)	20mm以下	5mm
耐洗浄性	剥がれや摩耗による基板の露出がないこと	異常なし
耐衝撃性	ひび割れ・著しい変形および剥がれがないこと	異常なし
耐アルカリ性(A法)	割れ・膨れ・剥がれおよび軟化溶出がなく、浸さない部分に比べて、くもり・変色が著しくないこと	異常なし
耐候性(A法)	キセノンランプで300時間照射しても、割れ・膨れ・剥がれ・白垂化がなく、見本品に比べて色の変化が大きくないこと (グレースケール3号以上であること)	異常なし
防カビ性	28日後、カビの発生が認められないこと	異常なし
防藻性	28日後、藻の発生が認められないこと	異常なし
可とう性	90°折り曲げて、ひび割れおよび剥がれがないこと	異常なし

梱包単位

・ダイヤノキセラコート 16kg/缶 ・ダイヤワイドシーラー 15kg/缶

適用下地

- ・表面の汚れや粉状物などが撤去・清掃されたアクリルリシンや硬質系吹付タイル下地などの改修面(天井)
- ・RCなどの新築面(シーラー等の下地処理が必要です)

ダイヤノキセラコート

標準施工仕様

■改修の場合

さざなみ模様仕上 (施工用具: 多孔質ローラー、中毛ローラー)

	工 程	材 料	希釈割合	所要量	塗回数	乾燥時間	
						工程内	工程間
1	模様塗り (多孔質ローラー)	ダイヤノキセラコート 清 水	16kg 0.5~0.8 $\frac{リットル}{㎡}$	0.6~0.7kg/㎡	1	—	5時間以上
2	平塗り (中毛ローラー)	ダイヤノキセラコート 清 水	16kg 1.6~2.4 $\frac{リットル}{㎡}$	0.25~0.3kg/㎡	1	—	—

ステップ模様仕上 (施工用具: 中毛ローラー)

	工 程	材 料	希釈割合	所要量	塗回数	乾燥時間	
						工程内	工程間
1	平塗り (中毛ローラー)	ダイヤノキセラコート 清 水	16kg 1.6~2.4 $\frac{リットル}{㎡}$	0.5~0.6kg/㎡	2	5時間以上	—

※間隔時間は、標準状態 (23℃、50%RH) での時間を示します。

■新設の場合

ダイヤノキセラコートの施工前に以下の塗装処理を行ってください。

	工 程	材 料	希釈割合	所要量	塗回数	乾燥時間	
						工程内	工程間
1	下塗り	ダイヤワイドシーラー 無希釈	15kg	0.1~0.2kg/㎡	1	—	2時間以上

※モルタル、現場打コンクリート (RC) セメントの新設下地の場合、ダイヤワイドシーラー処理が必要です。

■注意事項

【塗装面の調整(新設)】

- ①素地に付着している塵、汚れ、油脂類、レタンス等を完全に除去して下さい。
- ②セメント質下地は、表面の含水率10%以下 (pH10以下) になるまで放置して下さい。下地モルタルは十分に乾燥させて下さい。モルタルの乾燥期間は、夏期で1週間、冬期で2週間以上必要です。コンクリート下地は、夏期で2週間、冬期で3週間以上乾燥が必要です。
- ③雨上がり後は、均一に乾いてから施工して下さい。
- ④PCパネル、現場打ちコンクリートの場合
 - 1) 豆板、木コネ、破損箇所、不陸などは、セメンシヤス#2000、セメンシヤス#2500等の下地調整材を使用し、補修して平滑にして下さい。
 - 2) 表面が緻密でレタンス層がある場合は、レタンスを除去し、ダイヤシーラーエポをご使用下さい。

【塗装面の調整(新設・改修共通)】

- ①屋上防水、目地排水管など水の浸透が予想される箇所については、事前に十分点検し適切な処置をして下さい。
- ②使用シーリング材の種類により塗膜のひび割れ、剥離、ブリード等の異常を生じる場合があります。あらかじめ塗装仕様を確認して下さい。

【塗装面の調整(改修)】

- ①各現場の改修工事仕様に基つき劣化部分の補修や既存塗膜の処理 (ケレン、清掃、高圧水洗浄) などを行なって下さい。
- ②脆弱層が厚い場合には、取り除いてから施工して下さい。
- ③チョーキングは、サンダー、ワイヤブラシ等でケレン後、高圧洗浄で除去して下さい。

【材料の保管・管理】

- ①開缶した材料は必ず密封し、直射日光や雨露を避けて保管して下さい。
- ②材料の保管は凍結や温度上昇による変質を避けるため、気温5~35℃で、密封のまま直射日光を避け、屋内に貯蔵して下さい。長時間貯蔵したものは十分攪拌し、変質の有無を確認して下さい。

【施工】

- ①気温5℃以下、降雨、降雪、強風下および湿度85%以上の場合、または予想される場合には施工を避けて下さい。また作業後に、降雨、降雪の恐れがある時は雨 (雪) 養生をして下さい。
- ②材料は使用前に十分攪拌し、均一にしてから使用して下さい。配合割合を誤りますと、成膜不良や本来の塗膜性能が発現できませんので注意して下さい。
- ③材料は付着乾燥しますと取れませんが、完全に養生をして下さい。塗付面周辺の養生を完全に行ない、施工時建物の周辺に飛散しないように注意して下さい。また、塗付後は、速やかに養生紙や養生テープを取り除き清掃して下さい。乾燥後、養生テープを取り除く場合はカッターを入れて下さい。そのまま取り除きますと斑が残ったりとなります。
- ④乾燥時間は、温度、湿度、および、風等により差異を生じます。
- ⑤下地は十分に乾燥してから施工して下さい。乾燥不十分の場合、色ムラ、剥離等の生じる原因となります。
- ⑥施工にあたっては、同一方法で、入隅、出隅等見切りの良いところまで仕上げて下さい。同一壁面途中での塗り継ぎは色違いやムラの原因になります。
- ⑦施工後24時間以内に降雨、結露等があった場合、水分の影響で白化や色ムラが発生し、壁面に残る場合があります。

- ⑧本施工に入る前に試験塗りをを行い、施工のタイミング、粘度、塗布量などをチェックし、仕上がりムラにならないよう確認して下さい。
- ⑨希釈する場合、希釈量を厳守して下さい。薄め過ぎるときれいに仕上ることがあります。特に濃色や下地の吸い込みがない場合等は少なめに希釈して下さい。
- ⑩常に結露が発生する地域・時期での施工は避けて下さい。
- ⑪安全衛生上の注意事項については、容器の表示も合わせてご参照下さい。
- ⑫一度に厚く塗ると色分けや発泡が生じることがあるため、間隔時間を守り、規定回数以上に分けて塗布して下さい。
- ⑬塗装下地の差によって、塗布量が変わる場合があります。
- ⑭ツッ素や無機系などの難接着塗装処理がされている下地については、付着性が十分に発揮されないおそれがありますので、ご使用の場合は最寄の営業所へご相談下さい。
- ⑮可使時間及び塗装間隔は厳守して下さい。層間密着性の低下の原因となります。
- ⑯使用した器具類は直ちに洗浄して下さい。放置しますと硬化して洗浄することが難しくなります。
- ⑰濃色や原色に近い色の場合、強くすると色が取れる場合があります。
- ⑱下地の吸込ムラにより色彩のムラが発生する場合があります。
- ⑲シーラーと上塗りを混合するとゲル化する恐れがありますので、容器・刷毛・ローラーなどの共用は避けて下さい。
- ⑳上塗材を施工する場合は、下塗り後の乾燥状態を確認して下さい。
- ㉑既存塗膜の劣化が著しい場合、また既存塗膜がセメント系の場合には高圧水洗後にダイヤワイドシーラーを塗布して下さい。

【安全衛生上の注意】

- ①取扱いは、できるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて防護マスク、保護メガネ、保護手袋を着用して下さい。
- ②取扱い後は、手洗い及びうがいを行うして下さい。
- ③子供の手の届かない所に保管して下さい。
- ④作業中・作業後は十分換気を行って下さい。
- ⑤廃塗材、廃容器、洗浄水等は、産業廃棄物処理業者に委託して処理して下さい。
- ⑥目に入った場合には、直ちに多量の水で15分以上洗い、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。
- ⑦誤って飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。
- ⑧中身を使い切ってから廃棄して下さい。
- ⑨皮膚に付着した場合には、直ちに石鹸と多量の水で洗い落とし、痛み又は外観に変化があるときには医師の診断を受けて下さい。
- ⑩臭い、蒸気等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診断を受けて下さい。

【その他】

- ①その他、詳しくは最寄の各営業所へお問い合わせ下さい。
- ②施工に際し、施工・管理上の詳細な注意点については仕様書等をご確認下さい。
- ③施工に際し、安全衛生上の詳細な注意点については安全データシート (SDS) をご確認ください。

2023年4月1日よりシーカグループの株式会社ダイフレックスは日本シーカ株式会社に統合され、新たに **シーカ・ジャパン株式会社** としてスタートいたしました。

製品・工法に関するお問い合わせはホームページのブランドサイト <https://www.dia-dyflex.jp/>にてご確認のうえ各地域のオフィスまでお願い申し上げます。

(‘24.10月現在) 24.10.500 SJ